

第5章

寄宿舎の研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」

(2) 設定理由

第8次研究では、寄宿舎での生活や指導を通して、身辺自立や基本的生活習慣の確立、余暇の充実、自治的な活動が行われることにより、生徒一人一人が将来社会に出た際に自分らしい生き方を実現するための能力や態度を身に付けることができると考え、「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」を研究主題とした。昨年度の研究から、寄宿舎での生活や寄宿舎職員の指導により、身辺自立や基本的生活習慣が得られる様子は確認できた。また、自身に与えられた役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を経て自身の価値観に基づいた役割を受け入れる様子も見られており、「社会の中で自分の役割を果たす」というキャリア発達の定義に寄宿舎の指導が直結している点を改めて確認できた。しかし一方で、生活上の多様な役割の意義や自己の果たすべき役割を受け入れられず、目標とすべき将来の生き方や進路も定まっていないため、自己実現に向けた取り組みの指導に対し、対象生徒がその必要性を感じられず、また卒業後は社会的・職業的自立ができるという考えも見られ、一定の成果が得られない事例も確認された。結果として、自己理解と障害受容の指導方法に課題が残った。対象生徒に与えられた役割は主体的なものではなく、その点が昨年度の研究において一定の成果が上げられなかった一因と考えられる。

そこで今年度は寄宿舎生活の自治的な活動がキャリア発達を育み、現代社会を生きるために必要な基礎的・汎用的能力の向上に結びつくと考え、その有用性について検証する。

(3) 研究の内容と方法

① 全体研修での共通理解を図る

- ・学校で行われる全体研修会へ参加し、理解を深める。

② 行事や日々の生活が生徒のキャリア発達に与える影響について考察する。

男子棟ではびりか祭や男子棟新行事、余暇活動や日々の生活が生徒のキャリア発達に与える影響について、女子棟では女子棟行事が生徒のキャリア発達に与える影響について、それぞれ研究主題を踏まえた上で、場面ごとに訪れる役割をキャリア発達に関わる4領域に照らし合わせて考察する。

(4) 指導仮説

行事や日々の日課を自主的に取り組ませることで、集団での関わり方や自分の役割を果たすことの意義を実感し、卒業後に自分の役割や立場を理解して、社会と関わりながら自分らしい生き方を実現していく資質が育まれると考える。

2 研究の実際

研究実践報告

報告者 男子棟グループ

1、ぴりか祭から考える生徒のキャリア発達について

○活動名

ぴりか祭

○参加生徒

舎生全員（準備にかかわった生徒は、実行委員3名、実行委員以外の準備参加生徒3名、余興5名）

○準備段階の様子

【実行委員の活動】

A：片付けなどは自ら判断して積極的に行い、手が空いた時は「次に何をやりますか？」と職員に確認するなど、率先して次の仕事を探す様子が見られた。

実行委員の仕事とはまた別の風呂掃除の仕事がかぶってしまった際に、自分で時間を確認し、風呂掃除が始まる前に実行委員の仕事を離れてよいか確認に来ていた。台本の読み合わせ練習の際は、どの台詞をしゃべるか志願していた。一方で、開始時刻に遅れてくる様子や制作物で人をつついて遊ぶ様子も見られた。

B：わからないことを自分で判断せず、職員や他生徒に確認していた。台本の読み合わせの練習では、しゃべる台詞を志願し緊張からしゃべれなくなる様子も見られたが、頑張って練習していた。言い辛い台詞は、ニュアンスが変わらない表現で言い換えていた。5分前行動を意識して開始時刻の5分前には集合場所に来ていた日もあったが、開始時刻に遅れる日もあった。

C：積極的に活動に参加しようとする様子が見られた。手が空いた時は「次に何をやりますか？」と職員に確認するなど、率先して次の仕事を探す様子が見られた。その他、実行委員の挨拶を志願したり、作業の手順などわからないことを周りの生徒に確認したりしていた。一方で、開始時刻に遅れる日もあった。また、作業内容によっては苦手とするものもあり、手持ち無沙汰になる様子が見られた。

D：手伝いを志願して参加している。作業は積極的に行い、掃除も職員に言われる前に誰よりも早く行っていた。

E：手伝いを志願して参加している。開始時刻前には集合場所に来ていた。自分の担当する仕事が終わったら戻ろうとする様子が見られた。

F：手伝いを志願して参加している。わからないことを自分で判断せず、職員や他生徒に確認していた。

全体を通して：当初、開始時間に遅れる生徒もいたが、回を増すごとに遅れる様子は減っていった。

活動時間終了まで活動に取り組んでいたが、一方で、作業に集中していて終了時間を意識していない様子も見られた。活動時は複数のチームに分かれて、それぞれのチームで協力して活動に取り組んでいた。輪投げの輪を作る際は、個々人で試作品を作り、それぞれの「作りやすさ」「見た目」「大きさ」「重さ」「輪の太さ」「耐久性」を検討し、どの試作品を採用するか話し合っていて決まっていた。

【余興】

練習の必要性を個々で認識しており、積極的に練習していた。しかし、メンバー間で求める完成度に差があり、練習の内容や計画立てで意見が分かれる様子があった。メンバー間で話し合いを重ねた

が、意見の調整には最後まで至らなかった。また、練習したい気持ちが先走り、学校で正式な手続きを踏まずに練習する様子が見られた。

○当日の様子

【対決ゲーム】

生徒は対決ゲームに参加するために順番を守って待つことができおり、長い列ができていた。対決ゲームに参加する際は、ゲームの種類によって必要な物品を職員が声をかける前に生徒自ら判断し準備していた。後片付けの際には、わからないことを職員に確認しながら行っていた。

【射的】

D、Gが射的ブースの接客を手伝ってくれている。二人は「チケットの受け取り」や「弾拾い」、「景品の受け渡し」に加え、「鉄砲の取り扱い」について射的の参加者に説明していた。また、鉄砲の弾を上手く付けられない生徒にアドバイスをしたり、生徒の腕前に合わせて的を手前にずらしたり、参加者が楽しめるように工夫し取り組む様子が見られ、最後まで射的ブースの運営を手伝ってくれていた。

【かたぬき】

参加生徒は決まりを守ってかたぬきを楽しむ様子が見られた。

【輪投げ】

参加生徒は決まりを守って輪投げを楽しむ様子が見られた。接客を担当してくれた生徒は、率先して仕事をもらいにいく姿勢が見られた。

【景品受け渡し場所（輪投げ、射的以外）】

生徒は景品を得るために順番を守って待つことができていた。また、決まりを守って受け取った景品に記名をしていた。

【余興】

思い通りにいかないことがあり、直前になって出演を取りやめそうになる生徒がいた。しかし、周りから話をされ予定通り出演した。

○事後の様子

今年のびりか祭は楽しかったと話す生徒が多かった。また、実行委員や準備を手伝ってくれた生徒を集めて打ち上げを行い、その際に生徒がお互いをねぎらう様子が見られた。

○成果と課題

参加した生徒の多くがびりか祭を楽しんでおり、準備段階から当日に至るまで集団の余暇活動として、有益な取り組みであったと思われる。志願してびりか祭の準備に参加している生徒が複数名おり、実行委員や余興メンバーに加え、それらの生徒も積極的に各々の仕事に取り組んでいた。非常に楽しんで創作活動に取り組んでいる様子があり、一つの仕事が終わった後に次の仕事を探したり、他生徒の手伝いに回ったりする場面が見られ、自ら考えて動こうとする姿勢が多かった点は非常に良かった。当日も積極的に裏方へまわってびりか祭の参加者を楽しませようとする様子が見られ、参加者もルールに従って参加し、楽しんでいる様子があった。これらは寄宿舍での日々の指導における一定の成果であったと言える。しかし、準備段階において集中して取り組むあまり、終わりの時間を意識できず終了時間後も作業を続けていた点は今後の課題である。また、余興メンバーは練習に楽しんで取り組む様子や積極的に練習して良い演奏をしようという意欲こそ見られたが、メンバー間の意思統一や決まりの順守を疎かにする様子が見られるなどの課題も残った。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・自分から進んで役割を引き受ける（自己理解・自己管理能力）
- ・自分の役割に責任を持って取り組む（自己理解・自己管理能力）
- ・わからないことは確認してから作業する（課題対応能力）
- ・他生徒の手伝いにまわったり、裏方の仕事を率先して行い周りの生徒を楽しませようとする（人間関係形成・社会形成能力）

【今後の課題】

- ・終わりの時間を意識して行動する（キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力）
- ・意思統一や決まりの順守を疎かにしない（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力）

2、男子棟お楽しみ会から考える生徒のキャリア発達について

○活動名

男子棟お楽しみ会

○参加生徒

男子生徒全員（打ち合わせは室長：11名）

○準備段階の様子

男子棟で行う行事を生徒間で話し合って決める試みを今年度から始めた。一回目の室長ミーティングで費用や時間などのルールを職員から生徒に提示し、その中でできることを室長にまず説明し、室長を通して男子生徒全員からアンケートを募集した。集まったアンケートの中から室長が二回目の室長ミーティングで行事を選定し、外食会（石田屋、君ちゃんラーメン）とカラオケ大会（東部ふれあいホール）、温泉会（あったかランド）が決定した。その後、室長が各々の部屋の生徒に4か所の中からどこに行きたいのか意思確認を行って、各生徒の参加する行事内容が確定した。

【室長】

一回目の室長ミーティングが終わった後、ミーティングの内容を職員に確認したり、室長が自身の部屋の生徒へ説明している場面で他の室長がフォローしたりしている様子が見られた。各室長が精力的に他生徒への呼びかけを行った結果、期日までに全ての生徒から希望する行事の意見を集めることができた。その後、二回目の室長ミーティングの中で各生徒から集まった意見を確認し、全員ではないものの各室長が意見を述べながら、またわからないことは職員に確認しながら、最終的には話し合いの中で行事を4つに絞ることができた。

○当日の様子

【カラオケ大会】

会場までの移動は特に問題なく交通ルールに則って行っていた。また、会場である東部ふれあいホールに着いた際には、施設の管理者に対する挨拶を礼儀正しく行っていた。カラオケ大会が始まると、歌い終わった後に聞いていた生徒が拍手をしたり、歌っている最中に合いの手を入れて盛り上げようとしていたりして、全体で楽しもうとする様子が見られた。歌いたい生徒が一通り1曲歌った後は、生徒間で譲り合いながら順番を決め、終了時刻が近づくと後何曲歌えるかを考え、終わりの時間を自分たちで意識して終わることができていた。帰る際も後片付けや挨拶はできていた。

【外食会（石田屋）】

会場である石田屋への移動中や店内での食事中にふざけている様子はなく、ルールやマナーを守っ

て行事を楽しんでおり、周辺住民に迷惑をかける行為はなかった。また、決められた予算内で食事をすることができていた。

【外食会（君ちゃんラーメン）】

会場である君ちゃんラーメンへの移動中や店内での食事中にふざけている様子はなく、ルールやマナーを守って行事を楽しんでおり、周辺住民に迷惑をかける行為はなかった。仲間うちでも注意を促し合うなど、自分たちで決まりを守ろうという意識が見られ、かつ店の人への挨拶やおかわりのお願いなども丁寧であり、通常の寄宿舍の食事よりも食事のマナー（ごはんの食べ方、作ってくれた人への礼儀など）に関する良い言動が見られた。

【温泉会（あったかランド）】

出発後の移動は特に問題なく行えていた。入浴の際は、浴槽二つと水風呂の移動の際に他のお客さんがいる事を忘れてはしゃいでしまっていると感じる事もあったが、全体的には寄宿舍での入浴のマナーを守れていた。また、普段かかわりの少ない生徒同士でも、特に分かれることなく一つのグループとして行動していた。入浴後は、予算を考えながらジュースやアイスを購入しており、全員が予算内で買い物できていた。

○事後の様子

自身が望む行事に参加できるため、行事に対する参加意欲が高く、今後も続けてほしいとの声が上がっていた。

○成果と課題

今回の行事は初めての取り組みであったが、生徒は意欲的に参加することができていた。準備段階では生徒の意見集約と男子棟お楽しみ会の内容決定を室長に任せているが、各室長が自身の役割を理解し、責任を持って期日までに与えられた仕事をこなしている。室長ミーティングの中でわからなかった点は、そのまませず職員へ確認し、室長の誰かが困っている場面では、他室の室長がフォローに入る様子も見られた。また、意見集約後の男子棟お楽しみ会の内容を決める際は、自身の行いたい行事を優先するのではなく、アンケートの投票数と職員から提示されたルールなどを加味した実現可能性に焦点を当てて話し合いを進めていた。これは、日々の生活で受ける指導に加え、舎友会活動において話し合いの場を設け、役割分担や各自の仕事に取り組んだ経験や、そこで受けた指導も影響していると思われる。

行事当日の様子では、どの企画も概ねルールを遵守して行われており、施設の管理者や店員に対する礼儀作法も特に問題は見られなかった。また、決められた予算の中で行事を楽しむことができていた。カラオケ大会に参加した生徒は、場を盛り上げようと合いの手を入れていた。また、順番を自分たちで決めて守っていた。全ての企画において、概ねタイムスケジュール通りに進行し、終わりの時間を意識して終わらせていた。これらのことから、室長以外の生徒においてもルールや礼儀作法、時間を守る意識などは身につけていると言える。しかし、入浴会の入浴時において周りの利用客を忘れてはしゃいでいた様子もあり、今後も様々な行事を通して継続した指導が必要である。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・役割を理解し責任を持って仕事をする（自己理解・自己管理能力）
- ・期日までに仕事を終わらせる（キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力）
- ・わからなかった点を確認する（課題対応能力）

- ・他室の室長をフォローする（人間関係形成・社会形成能力）
- ・施設の管理者や店員に対して礼儀正しく接する（人間関係形成・社会形成能力）
- ・決められた予算の中で行事を楽しむ（自己理解・自己管理能力）
- ・場を盛り上げようと合いの手を入れる（人間関係形成・社会形成能力）
- ・順番を自分たちで決めて守る（人間関係形成・社会形成能力）
- ・タイムスケジュール通りに進行し、終わりの時間を意識して終わらせる（キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力）

【今後の課題】

- ・ルールやマナーを守らず、周りの迷惑を考えない行動をする（人間関係形成・社会形成能力）

3、オセロ大会から考える生徒のキャリア発達について

○活動名

男子棟オセロ大会 余暇時間に男子舎生、職員でトーナメントを組み、オセロで対決をして優勝を目指す。

○参加生徒

舎生17名、職員5名

○準備段階の様子

生徒よりオセロ大会を開きたいと職員へ話があり、それを受けて行った取り組みである。初めての試みだったので、基本的に人数集めや情報宣伝などは職員が行っている。対戦相手を決める抽選の段階から楽しみにしている生徒が複数名おり、自身が優勝するにあたり対戦するであろう相手を予想して楽しんでいた。また、参加生徒の中には大会開始前より生徒同士で練習したり、職員への対戦を申し込んだりしている者もいた。対戦相手が決まり、トーナメント表などの掲示物が張られた後は、掲示物を見て楽しんでいる様子も見られた。なお、オセロ大会への参加は、日々の寄宿舎での日課を守ることが前提にあるため、参加生徒の生活態度向上も見られている。一方、一部の参加しない生徒からは、「賞品が出ない」「恥ずかしい」などのネガティブな発言が出ていた。

○当日の様子

トーナメント抽選会では誰と誰が対決するかで大いに盛り上がった。大会が始まると、一回戦目は対戦する生徒もギャラリーもまだどのように楽しんでよいかわからず、黙々と対戦者がオセロをするだけであったが、大会が進むにつれて、生徒が注目する対戦カードには見物客が訪れ、対戦者同士の会話が増えるだけでなく、ギャラリーからも歓声が飛び交うなど全体的に盛り上がる様子が見られた。これは生徒が大会の楽しみ方に慣れてきたことに加えて、対戦場所を途中で階段下の端のスペースに変更したことで、他生徒の目に留まりやすくなり、興味を持つ機会が増えたことも一因として考えられる。職員と対戦する生徒は、職員の勤務日まで待たなければならなかったが、その間も他生徒と練習するなどして対戦準備をしていた。優勝者は普段あまり自己主張をしないタイプの生徒であったが、他生徒から優勝を称えられて自信が付いたように見える。大会は約一週間かけて行っただが、中だるみすることなく終わることができている。これは、敗者もまたその先の対戦を観戦するなど、誰が優勝するのかを楽しみにしていた点が大きいように思える。

○事後の様子

大会が終了した後もしばらく生徒同士の会話でオセロの話題があがることが多く、次回以降も大会を開きたいという要望が参加者、ギャラリー含めて多数あがっていた。また、オセロがあまり得意で

はない生徒からは、自分の得意分野の大会を開いてほしいなどの要望もあがっていた。

○成果と課題

男子棟お楽しみ会に続きオセロ大会も初めての取り組みであったが、参加者全員がオセロ大会を楽しんで集団の余暇活動として機能することができていた。普段コミュニケーションを取ることが少ない生徒同士も対戦をしながら会話する様子が見られ、一過性のものではあるが人との関わりが増えていく。日常生活においても日課に前向きに取り組んでおり、生活面でのモチベーションの向上につながっている。次回以降の要望も多数出ており、余暇としての継続性も見られ、参加生徒以外からも他ジャンルでの大会を開いてほしいなど積極的な意思の表出がされていた。

今回の大会は人数集めや情報宣伝を職員で行っているため、今後大会を開く際は生徒が行えるとより生徒主体の余暇活動となり、キャリア発達を育む機会の増加につながると思われる。よって次回以降は生徒が大会の運営を行うことが望ましい。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・余暇活動をより良くするために、自分の意見を伝える（課題対応能力）
- ・順番を待つことができる（人間関係形成・社会形成能力）
- ・目標に向けて準備ができる（課題対応能力）

4、棟活動費活用先の意見集約から考える生徒のキャリア発達について

○活動名

棟活動費活用先の意見集約

○参加生徒

男子生徒全員

○意見集約の様子

男子生徒全員に棟活動費の活用方法について意見集約を行う旨を説明し、その際の集約方法についての説明も行った。説明内容は下記の通り。まず前提条件として、「男子生徒全員が平等に使えるもの」、「寄宿舍生活にふさわしいもの」、「予算は1万円以内」の三点を提示した。次にこの条件を踏まえ、各舎室で室長が中心となって話し合いの場を作り、その中から出された要望を室長が用紙に記載し職員へ提出するよう説明した。最後に提案された意見の中から、職員で協議して使用先を決め、決定次第生徒へ周知することを説明した。

職員が棟活動費の活用方法について説明している際、生徒は真面目に話を聞いていた。集約の際も特に混乱する様子はなく、提出された用紙を見ても前提条件の崩れた意見は見当たらなかった。

○意見集約後の様子

多数の意見が出ていたソファを購入し、プレイルームに設置した。設置後、新しいソファでくつろいでいる生徒の様子がよく見られる。

棟活動費の活動とは異なるが、その後も「浴室掃除のホースが欲しい」や「食事のあとの挨拶を早めて欲しい」など、生活に対する改善の意見が生徒から出されている。

○成果

今回の取り組みは、棟活動費の活用先を生徒自身が考えることで、集団生活の場全体を考えつつ、かつ自分自身の願いを組み込むことで、集団と自分個人の関係を結び付けて考える機会として活用したい狙いがあった。当初、「男子生徒全員が平等に使えるもの」や「寄宿舍生活にふさわしいもの」、「予算は1万円以内」などの前提条件から外れた意見が出されることも予想されたが、それらに合致した意見が出され、棟全体のことが考えられていた。また、棟活動費の使い方だけでなく、生活に対する改善の要望も生徒から出され、棟活動費の活用を考える取り組みを通して、棟全体のことを考えながら意見を出して、寄宿舍でのより良い生活を実現させていく意識を身に付けることにつながったと考える。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・ルールを守ることができる（自己理解・自己管理能力）
- ・他者のことを考えた言動ができる（人間関係形成・社会形成能力）
- ・棟活動費で何を購入すれば生活がより良くなるのかを考え、考え付いた意見を伝えることができる（課題対応能力）

5、すっきりサークルから考える生徒のキャリア発達について

○活動名

すっきりサークル

○参加生徒

男子生徒11名

○準備段階の様子

生徒A：夕食後、すっきりサークルへの参加を生徒に呼びかけ、参加希望の生徒の集約を行った。

○当日の様子

- ・講師の方や外部の参加者へ礼儀正しく挨拶していた。
- ・話を聞いて言われた通り真面目に取り組む様子が見られた。
- ・楽しんで運動している様子が見られた。

○事後の様子

- ・「疲れた」と話す生徒が複数いたが、表情は明るかった。

○成果

生徒Aは、活動の告知や参加集約を担当し、責任を持って仕事をやり遂げていた。卒業後の生活においても、企画の参加者募集や参加者の集約は行わなければならない場面が出てくると考えられる。そういった場面向けた練習として、一つの活動のとりまとめを行った経験は将来役立つと考える。

参加者として参加した生徒は、外部の参加者に対して礼儀正しく接しており、一緒にすっきりサークルの活動を楽しんで参加することができていた。卒業後も地域の活動などを通して、地域の一住民として外部の方と接する機会は少なくないと思われる。世代の異なる初対面の人と一緒に活動する際の練習として、将来役立つと考える。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・責任を持って仕事をやり遂げる（自己理解・自己管理能力）
- ・指導者や地域住民に対して礼儀正しく接する（人間関係形成・社会形成能力）

6、一年生の洗濯指導について

○活動名

洗濯

○参加生徒

5名

○目的

上記1から5までの研究は、寄宿舎の行事や余暇活動に着目して行われた。結果、行事を通した寄宿舎の取り組みが、主に社会性の面でキャリア発達に直結している点を確認できた。しかし、研究主題が「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」であることから、社会性の面だけでなく身辺処理の面についてもキャリア発達の検証が必要だと考えた。現在、男子棟1階にて日課の観察・指導をしていると、洗濯に関して次の2点の状態がよく見られた。①声をかけられるまで洗濯をしない生徒が目立つ。②時間を自ら区切ることができない生徒が目立つ。2点目の時間を守れない点については、ぴりか祭を行った際にも今後の課題として確認されている。そこで、男子棟1階の1年生をメインとしたグループを作り、グループ指導を行うことで洗濯に対する意識や時間に対する意識の向上と、グループで取り組むことによる個人の役割に対する意識の向上を目的とした指導ができるのではないかと考え、キャリア発達を育む指導の観点を踏まえた検証を行うこととした。

○アセスメント

期間：10月21日～11月21日

洗濯の開始時と終了時における前後の行動を記録し、段階評価を行った。評価は「A（呼ばずに出来た）」「B（言葉がけで出来た）」「C（言葉がけでも行動に移すことが出来なかった）」「やっていない」の四段階で行っている。言葉がけの際は洗濯終了から5分程待ち、5分おきに言葉がけを行うことで統一した。アセスメントの結果と考察は以下のとおりである。

生徒①の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒①洗濯開始評価			評価B前の行動			
評価	回数	占有率	片付け	プレイルーム	自室	掃除後廊下
やっていない	1	6%	1	2	2	1
C	0	0%	評価A前の行動			
B	6	35%				
A	7	41%	下校	廊下	未記入	
未記入	3	18%	5	1	1	
合計	17	100%				

【考察】

- ・下校後に洗濯を始めると時間の切り替えがしやすく、A 評価になる。プレイルームや自室で過ごしたり、何かを行ったりしていると声をかけられるまで気づかないことが多い。

生徒①の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒①の洗濯終わり評価			評価 B 前の行動			
評価	回数	占有率	プレイルームでテレビ	電話	夕食	
やっていない	1	6%	2	1	1	
C	0	0%	評価 A 前の行動			
B	4	23%	プレイルームでテレビ	廊下	掃除	夕食
A	9	53%	2	1	2	1
未記入	3	18%	洗濯機前で待機	自室	未記入	
合計	17	100%	1	1	1	

【考察】

- ・始まりに比べて、終わりの時間は意識することができている。しかし、プレイルームや自室で過ごしたり、何かを行ったりしていると声をかけられるまで気づかないことが多い。

生徒②の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒②洗濯開始評価			評価 B 前の行動	
評価	回数	占有率	部屋	
やっていない	6	35%	3	
C	0	0%	評価 A 前の行動	
B	3	18%	下校	部屋
A	8	47%	6	2
未記入	0	0%		
合計	17	100%		

【考察】

- ・洗濯をしない日が期間中 6 回あり、洗濯を毎日する習慣ができていない。
- ・評価 A が 8 回あり、洗濯を始めることはできている。

生徒②の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒②の洗濯終わり評価			評価 A 前の行動			
評価	回数	占有率	自室で漫画	部屋	廊下	夕食
やっていない	6	35%	5	2	1	1
C	0	0%				
B	0	0%				
A	9	53%				
未記入	2	12%				
合計	17	100%				

【考察】

- ・A 評価が 9 回と最も多い。洗濯を始めることができれば、どこにいても洗濯の終わりを意識して行動することができている。

生徒③の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒③洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	17%
C	0	0%
B	1	6%
A	12	71%
未記入	1	6%
合計	17	100%

評価B前の行動	夕食
	1

評価A前の行動	下校	プレイルーム	夕食	廊下
	6	1	1	1
	掃除	行事	未記入	
	1	1	1	

【考察】

- ・やっていない日が期間中3回あり、必ずしも洗濯を毎日行っているわけではない。
- ・どのような状況下でも評価Aで、洗濯に対する意識が高い。

生徒③の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒③洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	18%
C	0	0%
B	1	5%
A	10	59%
未記入	3	18%
合計	17	100%

評価B前の行動	プレイルームでテレビ
	1

評価A前の行動	廊下	掃除	自室
	8	1	1

【考察】

- ・A評価が10回と最も多い。洗濯を始めれば、終わりの時間を意識して行動することができている。

生徒④の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒④洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	18%
C	0	0%
B	2	12%
A	11	65%
未記入	1	5%
合計	17	100%

評価B前の行動	自室	プレイルーム
	1	1

評価A前の行動	自室	部屋	廊下	未記入
	6	2	1	2

【考察】

- ・やっていない日が期間中3回あり、必ずしも洗濯を毎日行っているわけではない。
- ・どのような状況下でも評価Aで、洗濯に対する意識が高い。

生徒④の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒④の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率

評価B前の行動	プレイルーム
	1

やっていない	3	18%
C	0	0%
B	1	6%
A	8	47%
未記入	5	29%
合計	17	100%

評価A前の行動	自室	夕食	プレイルーム	未記入
	2	2	1	3

【考察】

- ・ A評価が8回と最も多い。洗濯を始めれば、終わりの時間を意識して行動することができている。

生徒⑤の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒⑤の洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	2	12%
C	5	29%
B	3	18%
A	3	18%
未記入	4	23%
合計	17	100%

評価C前の行動	寝ている	娯楽室	入浴
	2	2	1

評価B前の行動	シャワー	プレイルーム	娯楽室
	1	1	1

評価Aの行動	食事	下校	4室
	1	1	1

【考察】

- ・ やってない、評価Cが17回中7回あり、洗濯を始めること自体が定着していない。もしくは始めることが苦手と考えられる。
- ・ 娯楽室、プレイルームでテレビをみていると評価Bか評価Cになることから、他に熱中してしまうものがあると行動を切り替えづらいと思われる。
- ・ 全体における回数は少ないが、下校、食事のあとに洗濯を始めるとA評価になることから、キリのいい時間に洗濯を始めることはできている。

生徒⑤の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒⑤の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	2	12%
C	2	12%
B	5	29%
A	3	18%
未記入	5	29%
	17	100%

評価C前の行動	未記入
	2

評価B前の行動	ゲーム	自室でカードゲーム
	1	1
	自室で友人と過ごす	娯楽室でテレビ
	1	1
	未記入	
	1	

評価A前の行動	2層式洗濯機の前で待機	掃除
	1	1
	未記入	
	1	

【考察】

- ・評価Bが5回と最も多い。洗濯を始めることよりは、終わることの方が行動しやすいように思われる。しかし、洗濯が終わる時間を意識して行動することは苦手、もしくは定着していない。
- ・娯楽室でのテレビ視聴やカードゲーム、友人との会話などをしていると評価がBになることから、他に熱中してしまうものがあると行動を切り替えづらいと思われる。

【全体的な考察】

洗濯を始めることに関して、評価Aの全サンプル41件中の洗濯前行動の18件が下校になっており、下校時に洗濯をはじめやすい。また、全員が洗濯をしていない日が1回以上あることから、毎日洗濯をする習慣が定着している生徒は一人もいない。

○指導方法

キャリア発達の指導として

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に対するアプローチとして、個別指導ではなく、対象生徒でチームを組み、全員で洗濯に取り組む場を設定した。

アセスメント考察により

- ・洗濯に対する意識の向上を図る指導
- ・時間の切り替えを意識できる指導

を行うことでより効果的な指導になると考え、実践を下記の通り進めることとした。

- ・洗濯の流れを明確化し、毎日洗濯することを決め、実行する。(ルール明確化、自己理解・自己管理能力)
- ・1日の終わりにミーティングを行い、洗濯に対しての評価を対象生徒に伝える場を設ける。(できた生徒の自己肯定感の向上、ミーティングを行うことでの人間関係形成・社会形成能力の向上、課題対応能力の向上)
- ・自分で洗濯が出来た場合にはシールを貼り、1週間できたら合格にシールを貼れる(写真1)(段階の見通しによるキャリアプランニング能力の基本にアプローチする)
- ・みんなで協力する意識を高めるために、全員合格出来た場合に次の洗濯レベルに上がる。洗濯レベルはレベル1～レベル3を用意した。(人間関係形成・社会形成能力、キャリアプランニング能力、)
- ・タイマーを活用し、視覚的に時間を区切ることができるようにする。(キャリアプランニング能力)



写真1

○指導実践

【1週目（11月25日～11月28日）】

洗濯札を使わずタイマーのみを使って洗濯するというルールを周知し、このルールに沿った指導を行った。これを洗濯レベル1とし、より時間の意識を高めるために行った。

指導の土台となるミーティングのルールを生徒に周知し、ミーティングに生徒がまず慣れることを念頭に取り組みを進めた。

＜全体的の様子＞

- ・洗濯の指導を行うと伝えた時は、乗り気ではなかったが、拒否する生徒は一人もいなかった。
- ・全体的な目標、終わった後に全員で打ち上げ（強化子）をしようと伝え、チームとしての連帯感を強めた。
- ・1週目ということもあり、ミーティングに対しても緊張感があり、ほぼ時間を守ることができていた。
- ・全体的な話し合いの場に慣れていないことから、私語が多く見られた。ミーティング時のルールとして「人の話は割り込まず最後まで聞く」と「人の意見は否定しない」を決め、以後ミーティングの初めにルールの確認を行った。
- ・洗濯に関しては全員が毎日洗濯していた。言葉がけを受けることなく自分で行き、自分で終わることができた。
- ・ミーティングが進むにしたがって、「できたことを褒められる」「できたらシールでできたことを視覚化できる」ということが認識され、やる気につながっていった。
- ・全員合格して次のレベルに上がったことで、前向きな発言が増えた。

＜生徒個人の様子＞

生徒① ミーティングでリーダーシップをとる様子がみられた。積極的に発信する姿が見られた。

生徒② 発言は無いが、みんな出来た時に拍手し、褒め合う時にも拍手をする姿が見られた。生徒②なりに積極的に参加していると思われる。

生徒③ ミーティング時にテンションが高く、楽しんで行っている姿がみられた。

生徒④ ミーティングに独り言が多かった。本人なりに参加する意識は高かった。

生徒⑤ 褒められたときに表情が良くなり、洗濯を積極的に行う姿勢が見られた。また、ミーティングでも挨拶や姿勢を正すなど積極的に参加する姿勢が見られた。

【2週目（12月2日～12月5日）】

時間に対する意識は1週目で概ねついたので、洗濯レベルをレベル2に引き上げ、洗濯の札を使用し順番の意識づけを開始した。

＜全体の様子＞

- ・2週目となり慣れも出てきて、ミーティングの時間に対する意識が若干低下した。就職や自立の話をして時間を守る意味などを話すと真剣に聞く姿が見られた。
- ・3日目に生徒⑤が洗濯評価でシールをもらえず全員で次のレベルに進むことができなくなったが、他の生徒が生徒⑤を責める様子はなく、チームとしての意識があると感じられた。
- ・ミーティング時に自分たち中心のコミュニティを作り始めた。シールの色をみんなで話し合ったり決めたり、シールを貼る順番を自分たちで話し合ったり、職員からの発信が無くても自分でできることは楽しんで進めている姿がみられた。
- ・洗濯は生徒⑤の1回の失敗があったものの、その日以外は成功することができ、他の舎生も全員成功した。

<個人の様子>

- 生徒① 挨拶など積極的に行う姿が見られた。
- 生徒② ミーティングの時間に遅れることがあったが、洗濯に対する意識は高い。
- 生徒③ ミーティングに遅れる生徒の様子を心配し、仲間意識が強い様子が見られた。
- 生徒④ ミーティング中の独り言は減少傾向が見られた。この状況に慣れてきたと思われる。また、時間に遅れた生徒に対してミーティング開始直前に時間を知らせるなど、チームとしての意識もついている。
- 生徒⑤ 1週目に比べ注意力が散漫になっており、疲れもあると思われるが、一度洗濯に失敗している。その結果、その日のミーティングはふてくされる姿が見られた。失敗体験により、その後に影響があるかと思われたが、ネガティブな発言はあるものの洗濯に対する姿勢や意識は高い状態で行っており、ミーティングでのふてくされた姿は、チームとして上の段階に行けなかった自分の失敗への呵責や、それを紛らわせるための発言と思われる。その後は疲れも見られるが、失敗せずに取り組むことができた。また、ミーティング時にこの取り組みに対して「楽しい」という発言もみられた。

【3週目（12月9日～12日）】

前週は全員成功にならなかったなので、取り組みは前週と同じ。

<全体の様子>

- ・ミーティングも3週目に入り、本人たちの日課として定着してきた様子があり、積極的に時間を守っていた。
- ・実践最後の週と意識づけをしたこともあり、全員洗濯と時間を意識して行うことができた。
- ・ミーティングに対する姿勢も向上し、挨拶や姿勢を正すなど本来の目標になかった部分も意識が上がっていった。

<個人の様子>

- 生徒① ミーティングに積極的に臨み、「またやりたい」との発言があった。
- 生徒② またやりたいか聞いたところ「ええ～」と嫌がっている様子はあったが、表情は柔らかく完全な拒否をしているわけではなく、継続してもよいと思われる。
- 生徒③ シールを渡した際に順番を決めるなど、自分から積極的に関わりを作っていた。
- 生徒④ コミュニケーションを取る上で難しい場面も見られたが、仲間を心配する姿も見られ、チームとしての意識もあった。
- 生徒⑤ 本指導を通して一番洗濯や時間に対しての意識が向上した。言葉遣いやコミュニケーションなどまだまだ指導が必要な場面は多いが、ミーティングを通じて少しずつ良くなっていく様子も見られた。

<周囲の生徒への波及>

- ・三年生徒がミーティングの見学を希望し、実際に見学して指導に興味を持っていた。
- ・20時55分までがミーティングの場であるプレイルームの利用時間であるが、以前は終わりの言葉がけを職員が生徒に対して行わないと利用していた生徒は終わることができなかった。しかし、ミーティングが行われる過程で、3週目には利用していた生徒も自分で時間を区切り、早いときには20時50分で利用を終了していた。

○再アセスメント

指導期間が終わり、洗濯の再アセスメントを行った。タイマーを使いたい生徒に対しては、職員へ申

し出ることで貸し出した。

期間：12月16日～12月24日

生徒①の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒①洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	1	6%
C	0	0%
B	6	35%
A	7	41%
未記入	3	18%
合計	17	100%

評価B前の行動	片付け	プレイルーム	自室	掃除後廊下
	1	2	2	1

評価A前の行動	下校	廊下	未記入
	5	1	1

生徒①の洗濯前の評価と考察（指導後）

生徒①洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	0	0%
C	0	0%
B	0	0%
A	3	100%
未記入	0	0%
合計	3	100%

評価A前の行動	自室	下校	未記入
	1	1	1

※生徒①はインフルエンザによる欠席のため回数が少ない。

【考察】

- ・指導前はA評価が7回で占有率が41%だったのに対して、指導後はA評価が3回で占有率は100%だった。A判定の占有率は改善しているが、アセスメントの施行回数が指導前の6分の1程度であり、洗濯を時間通りに開始する意識については評価できない。

生徒②の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒②洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	6	35%
C	0	0%
B	3	18%
A	8	47%
未記入	0	0%
合計	17	100%

評価B前の行動	部屋
	3

評価A前の行動	下校	部屋
	6	2

生徒②の洗濯前の評価と考察（指導後）

生徒②洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	0	0%
C	0	0%

評価B前の行動	部屋
	1

評価A前の行動	下校	部屋	廊下	未記入
---------	----	----	----	-----

B	1	20%
A	4	80%
未記入	0	0%
合計	5	100%

	1	1	1	1
--	---	---	---	---

※生徒②は体調不良による欠席のため回数が少ない。

【考察】

- ・指導前はA評価が8回で占有率は47%だったのに対して、指導後はA評価が4回で占有率は80%だった。洗濯をやっていない回数が指導前は6回あったが、指導後は0回だった。アセスメントの施行回数は指導前の3分の1以下ではあったが、毎日洗濯をする意識は身についたと言える。また、洗濯を時間通りに開始する意識についても少しずつ身に付き始めたと言える。

生徒③の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒③洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	17%
C	0	0%
B	1	6%
A	12	71%
未記入	1	6%
合計	17	100%

評価B前の行動	夕食
	1

評価A前の行動	下校	プレイルーム	夕食	廊下
	6	1	1	1
	掃除	行事	未記入	
	1	1	1	

生徒③の洗濯前の評価と考察（指導後）

生徒③洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	0	0%
C	0	0%
B	0	0%
A	6	100%
未記入	0	0%
合計	6	100%

評価A前の行動	下校	部活	未記入
	4	1	1

【考察】

- ・指導前はA評価が12回と5人の中で最も高く、洗濯を始める意識は高かった。指導後はA評価が6回で占有率が100%、アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、洗濯を時間通りに開始する意識が身についたと言える。また、洗濯をやっていない回数が指導前は3回だったのに対して、指導後は0回だったため、毎日洗濯をする意識が身に付いたと言える。

生徒④の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒④洗濯開始評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	18%
C		0%
B	2	12%
A	11	65%

評価B前の行動	自室	プレイルーム
	1	1

評価A前の行動	自室	部屋	廊下	未記入
	6	2	1	2

未記入	1	6%
合計	17	100%

生徒④の洗濯前の評価と考察（指導後）

生徒④洗濯開始評価			評価A前の行動			
評価	回数	占有率	下校	掃除	部屋	未記入
やっていない	0	0%	2	1	1	1
C	0	0%	プレイルームでテレビ			
B	0	0%	1			
A	6	100%				
未記入	0	0%				
合計	6	100%				

【考察】

- ・指導前はA評価が11回で占有率が65%と高く、洗濯を始める意識は高かった。指導後はA評価が6回で占有率は100%。アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、洗濯を時間通りに開始する意識が身についたと言える。また、洗濯をやっていない回数が指導前は3回だったのに対して、指導後は0回だったため、毎日洗濯をする意識が身についたと言える。

生徒⑤の洗濯前の評価と考察（指導前）

生徒⑤洗濯開始評価			評価C前の行動		
評価	回数	占有率	寝ている	娯楽室	入浴
やっていない	2	12%	2	2	1
C	5	29%			
B	3	18%	評価B前の行動		
A	3	18%	シャワー	プレイルーム	娯楽室
未記入	4	23%	1	1	1
合計	17	100%			
			評価A前の行動		
			食事	下校	4室
			1	1	1

生徒⑤の洗濯前の評価と考察（指導後）

生徒⑤洗濯開始評価			評価B前の行動		
評価	回数	占有率	娯楽室でテレビ	体育館	廊下
やっていない	0	0%	1	1	1
C	0	0%			
B	3	50%	評価A前の行動		
A	3	50%	夕食	未記入	
未記入	0	0%	2	1	
合計	6	100%			

【考察】

- ・指導前はA評価が3回で占有率が18%と5人の中で最も低かった。また、C評価が5回で占有率が29%と最も高く、洗濯を始めること自体が苦手、もしくは定着していないと考えられた。しかし、指導後はA評価が3回で占有率は50%、C評価は0回、洗濯をやっていない日も無かった。アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、洗濯を毎日行う意識と洗濯を時間通りに開始する意識が身に付き始めたと言える。

【全体的な考察】

全体を通して「やっていない」が一度もなかったため、洗濯を行う意識は定着したと言える。また、洗濯を始める時間に対する意識が改善されている。

生徒①の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒①の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	1	6%
C	0	0%
B	4	23%
A	9	53%
未記入	3	18%
合計	17	100%

評価 B 前の行動	プレイルームでテレビ	電話	夕食
	2	1	1

評価A前の行動	プレイルームでテレビ	廊下	掃除	夕食
	2	1	2	1
	洗濯機前で待機	自室	未記入	
	1	1	1	

生徒①の洗濯後の評価と考察（指導後）

生徒①の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	0	0%
C	0	0%
B	0	0%
A	3	100%
未記入	0	0%
合計	3	100%

評価A前の行動	未記入	洗面所で待機	自室
	1	1	1

【考察】

- ・指導前はA評価が9回で占有率が53%だったのに対して、指導後はA評価が3回で占有率は100%だった。A判定の占有率は改善しているが、アセスメントの施行回数が指導前の6分の1であり、洗濯を時間通りに終わらせる意識については評価できない。

生徒②の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒②の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	6	35%
C	0	0%
B	0	0%
A	9	53%
未記入	2	12%
合計	17	100%

評価A前の行動	自室で漫画	部屋	廊下	夕食
	5	2	1	1

生徒②の洗濯後の評価と考察（指導後）

生徒②の洗濯終わり評価			評価A前の行動				
評価	回数	占有率	掃除	部屋	夕食	未記入	
やっていない	0	0%	2	1	1	1	

C	0	0%
B	0	0%
A	5	100%
未記入	0	0%
合計	5	100%

【考察】

- ・指導前はA評価が9回で占有率は53%だったのに対して、指導後はA評価が5回で占有率が100%だった。アセスメントの施行回数は指導前の3分の1以下ではあったが、元々洗濯の終わりの時間を意識して行動することは得意だったこともあり、洗濯を時間通りに終わらせる意識は身についたと言える。

生徒③の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒③の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	18%
C	0	0%
B	1	5%
A	10	59%
未記入	3	18%
合計	17	100%

評価 B 前の行動	プレイルームでテレビ
	1

評価A前の行動	廊下	掃除	自室
	8	1	1

生徒③の洗濯後の評価と考察（指導後）

生徒③の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	0	0%
C	0	0%
B	0	0%
A	6	100%
未記入	0	0%
合計	6	100%

評価A前の行動	夕食	未記入	娯楽室でテレビ	他室
	3	1	1	1

【考察】

- ・指導前はA評価が10回で占有率は59%だったのに対して、指導後はA評価が6回で占有率は100%だった。アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、元々洗濯の終わりの時間を意識して行動することは得意だったこともあり、洗濯を時間通りに終わらせる意識は身についたと言える。

生徒④の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒④の洗濯終わり評価		
評価	回数	占有率
やっていない	3	18%
C	0	0%
B	1	6%
A	8	47%

評価 B 前の行動	プレイルーム
	1

評価A前の行動	自室	夕食	プレイルーム	未記入
	2	2	1	3

未記入	5	29%
合計	17	100%

生徒④の洗濯後の評価と考察（指導後）

生徒④の洗濯終わり評価			評価A前の行動	廊下・プレイルーム・部屋	プレイルームでテレビ
評価	回数	占有率		2	2
やっていない	0	0%		未記入	自室
C	0	0%		1	1
B	0	0%			
A	6	100%			
未記入	0	0%			
合計	6	100%			

【考察】

- ・指導前はA評価が8回で占有率は47%だったのに対して、指導後はA評価が6回で占有率は100%だった。アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、元々洗濯の終わりの時間を意識して行動することは得意だったこともあり、洗濯を時間通りに終わらせる意識は身に付いたと言える。

生徒⑤の洗濯後の評価と考察（指導前）

生徒⑤の洗濯終わり評価			評価C前の行動	未記入	
評価	回数	占有率		2	
やっていない	2	12%			
C	2	12%	評価B前の行動	ゲーム	自室でカードゲーム
B	5	29%		1	1
A	3	18%		自室で友人と過ごす	娯楽室でテレビ
未記入	5	29%		1	1
	17	100%		未記入	
				1	

評価A前の行動	2層式洗濯機の前で待機	掃除
	1	1
	未記入	
	1	

生徒⑤の洗濯後の評価と考察（指導後）

生徒⑤の洗濯終わり評価			評価B前の行動	娯楽室でテレビ	
評価	回数	占有率		1	
やっていない	0	0%			
C	0	0%	評価A前の行動	娯楽室でテレビ	入浴
B	1	17%		1	1
A	5	83%			
未記入	0	0%			
合計	6	100%			

【考察】

- ・指導前はA評価が3回で占有率が18%と5人の中で最も低かった。また、C評価が2回あった。しかし、指導後はA評価が5回で占有率は83%、C評価は0回だった。アセスメントの施行回数が指導前の3分の1程度ではあったが、C評価が無くなりA評価が増えたことに加え、娯楽室でテレビを見ている時でもA評価があったことから、洗濯を時間通りに終わらせる意識が身に付き始めたと言える。

【全体的な考察】

- ・全体通してC評価が無くなり、B評価が減ってA評価が増えたことで、洗濯を終わらせる時間に対する意識は改善している。

○成果と課題

今回の取り組みを通して、当初目標として掲げていた「洗濯に対する意識の向上を図る指導」と「時間の切り替えを意識できる指導」は、データ上それらが改善されていることから達成できたと言える。洗濯を時間通りに行えるようになった主な要因は、指導を集団で行ったことで、個々人がそれぞれの役割を意識し、チームとして次のレベルに進むことを生徒自身が目標として取り組んだ点が大い。結果、洗濯が習慣として根付き、指導後も継続して行うことができていると考える。しかし、指導後のアセスメント期間が短かったことと、まだ改善の余地があることから、今後もアセスメントの継続と必要に応じた集団で取り組む指導を行うことが望ましいと考える。

○キャリア発達との関連性について

【良かった点】

- ・チームとして自身の役割を全うしようとする（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力）
- ・時間を意識して行動する（キャリアプランニング能力）
- ・タイマーなどの補助道具を使用できる（キャリアプランニング能力）
- ・他者の失敗を責めない（人間関係形成・社会形成能力）
- ・成功体験を通じた自己肯定感の向上（自己理解・自己管理能力）
- ・ミーティングにおけるルールの遵守（人間関係形成・社会形成能力）

【今後の課題】

- ・失敗した後に適切な態度を取る（課題対応能力、人間関係形成・社会形成能力）

7、考察

本研究は、まず寄宿舍の行事や余暇活動に着目して行った。行事や余暇活動を通して、生徒一人一人が自ら進んで役割を引き受け、自身の役割に責任を持って取り組む様子が見られ、社会性の面で寄宿舍の取り組みがキャリア発達に直結している点を確認した。次に身辺処理の面について主に洗濯の場面に着目し、集団で目標に取り組むことで生徒一人一人が自身の役割に責任を持つようになり、結果として洗濯に対する意識の改善が図られることを確認した。以上のことから、生活上の多様な役割の意義を理解し、自己の果たすべき役割を受け入れられる環境が確保できれば、自己実現に向けた指導に対して自ら取り組むことができると考える。加えて、今後も生徒自身が集団での役割を意識できる指導に注力することで、卒業後に向けたキャリア発達を育む指導として、寄宿舍の指導が有用である点をさらに確認することができると考える。

研究実践報告

報告者 女子棟グループ

1 対象生徒

・女子棟生徒全員	3年生	6名
	2年生	7名
	1年生	11名

2 対象生徒の実態

3年生

おおむね基本的生活習慣が確立している生徒が多い。自己中心的な考えを持つ生徒もいるが気持ちに余裕があるときは他者を思いやり、特に後輩を気にかけて行動できる生徒も多い。後輩を気にかけて行動できる反面、同学年間ではライバル意識が強く、互いの行動や性格など認め合えず、協力・協同して物事を考え進める点においては課題が多い。

2年生

基本的生活習慣が確立していない生徒もいるが、おおむね日課に沿った行動ができている。精神面での不調から体調不良に陥りやすく、寄宿舎・学校生活に影響が出ることもある。時間の管理や先を見通して行動することが難しく、日課に遅れがちな生徒もいる。職員や意見の強い生徒に対して同調しやすく、大きく和を乱すことがない反面、判断をゆだね頼りがちなことも多く、様々な場面で積極性に乏しい。

1年生

基本的生活習慣が確立していない生徒が多く、身辺自立において多くに支援を必要としている。集団生活に適応するまでに時間が掛かり、寄宿舎の基本的な日課に取り組むことに精一杯で、生活に余裕を持つまでに至っていない。対人面において、性格が素直な生徒が多く職員や上級生のアドバイスを聞き入れることができるが、経験の少なさから他者に対する気遣いや思いやりを持った行動が難しい。

	良さ	課題点
3年生	身辺自立 後輩に対する思いやり	協力・協同 過度なライバル心
2年生	基本的生活習慣おおむね自立	時間管理・積極性・精神的弱さ 大人に対して依存心が強い
1年生	素直さ	基本的生活習慣・身辺自立 他者への気遣い

3 課題の設定及び指導仮説

生徒の実態として大多数の生徒が余暇を含めた寄宿舎生活は、全て周りの人たちが決めて、自分たちに必要なことは与えられ、「やってもらえる」と感じている。

身辺自立や当番活動だけではなく、余暇活動も含めたすべてにおいて受動的であり、決められた範囲の中では積極的・自発的に行動する面が見られるが、寄宿舎特有の決まりやルール、行事や活動は職員側から一方的に決められると感じている生徒が多く、反発心を持つ生徒がいても、理由を理解しようとしたり、自分達が自発的にこれらの事柄に対して意見を出し行動したりすることが少ない。

集団の中で自分のやりたいことを実行するためには、時間や予算などの制約や、下準備や諸手続きなどの手間を理解し、自分一人ではなく他者と意見を交わし協力し合って行う必要がある。それらを生徒が自治的に取り組むことで、それぞれの場面でキャリア発達が育まれるものとする。

4 指導内容及び方法

これまであった棟行事や季節的行事を既存のやり方や内容にとらわれず、生徒がやりたいと思っていることをどのようにすればできるか考え、生徒自身に企画、運営を行わせる。学年によって実態に大きく差があるため、話し合いや準備など、学年の実態に合わせて生徒が取り組む範囲や職員の支援を加減するが、あくまで生徒が中心となって進められるように指導、支援を行う。

5 指導経過

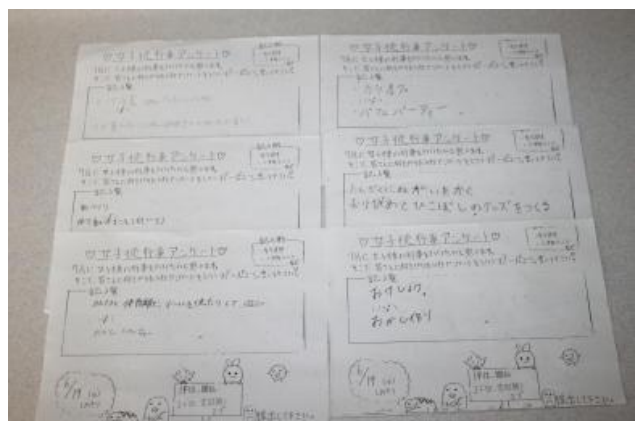
(1) 棟内余暇活動

基本的生活習慣がある程度確立しており、日課に余裕が持てる3年生を中心に、今後の寄宿舎生活での余暇の在り方について、話し合いの場を持った。時間帯や場所など、ある程度の制限を伝えた上で、使用できる予算を提示し、その中でできることは何か意見を交換し合った。話し合いの中から3年生だけの考えではなく、1・2年生の考えも聞きたいと発言があり、生徒達が自主的にアンケートを取り集約を行っている。

アンケート結果に対して、多数の意見のみを優先するのではなく、一つ一つのアイディアに対し実現可能か、みんなが楽しめるものかを検討した。

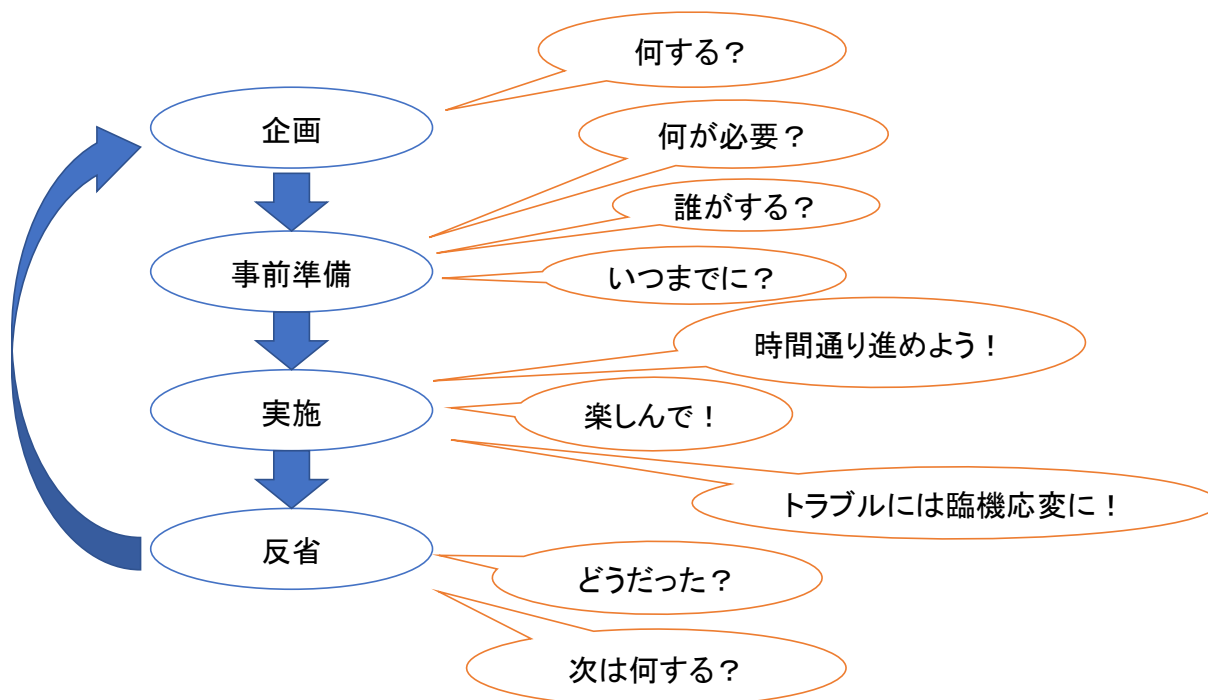
3年生にとってこれまでにない取り組みであったため、話し合いに全員が積極的であり、アンケート作成、集約、呼びかけなど、それぞれ分担し進めていた。

アンケートの内容について、行事として行えそうなもの、それぞれが好きな時間にできるもの、希望者が集まって実施するものなどと分けて考え、どうしたら実現可能か意見を出し合い内容を深めていた。



(2) 棟行事の実施

生徒の興味・関心から「やってみたいこと」を引き出し、企画の段階から生徒が中心となるように話し合いを進め、事前準備から行事当日、後片付けや反省までを生徒達が主体的に取り組めるように指導を行う。



①外食会【6月】

外食会自体は例年行っている棟行事であるが、外食会に関わる事前準備から当日に進行まで、すべて生徒達が行うように進めた。生徒達から「これまで行ったことのない店に行きたい」という要望もあり、外出場所の選定から行い、全員に希望をとった。

計画を進める最初の段階にスケジュール表を使用し、いつまでに誰が何をするか見通しを持って進められるように取り組んだ。

特に役割分担については、それぞれの得意な作業や週末在舎を含めた時間の余裕などを考え、効率的に分担をしていた。

- ・町内で外食に行ける場所を考える
- ・どこに行きたいかアンケートを取る
- ・アンケートを取りまとめて集計する
- ・アンケート結果から行く店を3店舗に決める
- ・3店舗の中からそれぞれ行きたい場所を聞く
- ・店に電話し、日時と人数を伝えて予約する
- ・事前にメニューを決めてもらう
- ・決めたメニューと金額をパソコンを使って入力する
- ・対象生徒に日課変更や服装などの準備等、連絡する

女子 外食会 行先 希望調査

行ってみたい(希望)に○を付けてね！(3つまで)

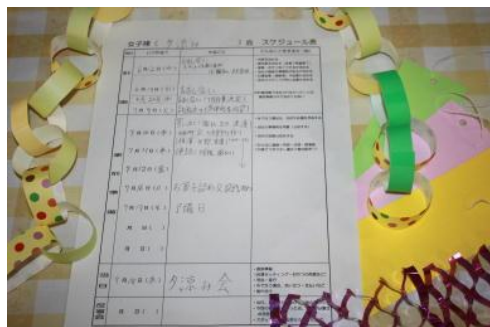
希望の店名	○を付けてね
石田屋 (メニュー表を見てね)	
せんざり (メニュー表を見てね)	
パロン (メニュー表を見てね)	
八十八 (メニュー表を見てね)	
和食屋 (メニュー表を見てね)	
和食屋 (メニュー表を見てね)	
和食屋 (メニュー表を見てね)	

女子 (月)	男子 (月)	スケジュール表
5月27日(月)	5月28日(火)	5月29日(水)
5月30日(木)	5月31日(金)	6月1日(土)
6月2日(日)	6月3日(月)	6月4日(火)
6月5日(水)	6月6日(木)	6月7日(金)
6月8日(土)	6月9日(日)	6月10日(月)
6月11日(火)	6月12日(水)	6月13日(木)
6月14日(金)	6月15日(土)	6月16日(日)
6月17日(月)	6月18日(火)	6月19日(水)
6月20日(木)	6月21日(金)	6月22日(土)
6月23日(日)	6月24日(月)	6月25日(火)
6月26日(水)	6月27日(木)	6月28日(金)
6月29日(土)	6月30日(日)	7月1日(月)
7月2日(火)	7月3日(水)	7月4日(木)
7月5日(金)	7月6日(土)	7月7日(日)
7月8日(月)	7月9日(火)	7月10日(水)
7月11日(木)	7月12日(金)	7月13日(土)
7月14日(日)	7月15日(月)	7月16日(火)
7月17日(水)	7月18日(木)	7月19日(金)
7月20日(土)	7月21日(日)	7月22日(月)
7月23日(火)	7月24日(水)	7月25日(木)
7月26日(金)	7月27日(土)	7月28日(日)
7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)
8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)
8月4日(日)	8月5日(月)	8月6日(火)
8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)
8月10日(土)	8月11日(日)	8月12日(月)
8月13日(火)	8月14日(水)	8月15日(木)
8月16日(金)	8月17日(土)	8月18日(日)
8月19日(月)	8月20日(火)	8月21日(水)
8月22日(木)	8月23日(金)	8月24日(土)
8月25日(日)	8月26日(月)	8月27日(火)
8月28日(水)	8月29日(木)	8月30日(金)
8月31日(土)	9月1日(日)	9月2日(月)
9月3日(火)	9月4日(水)	9月5日(木)
9月6日(金)	9月7日(土)	9月8日(日)
9月9日(月)	9月10日(火)	9月11日(水)
9月12日(木)	9月13日(金)	9月14日(土)
9月15日(日)	9月16日(月)	9月17日(火)
9月18日(水)	9月19日(木)	9月20日(金)
9月21日(土)	9月22日(日)	9月23日(月)
9月24日(火)	9月25日(水)	9月26日(木)
9月27日(金)	9月28日(土)	9月29日(日)
9月30日(月)	10月1日(火)	10月2日(水)
10月3日(木)	10月4日(金)	10月5日(土)
10月6日(日)	10月7日(月)	10月8日(火)
10月9日(水)	10月10日(木)	10月11日(金)
10月12日(土)	10月13日(日)	10月14日(月)
10月15日(火)	10月16日(水)	10月17日(木)
10月18日(金)	10月19日(土)	10月20日(日)
10月21日(月)	10月22日(火)	10月23日(水)
10月24日(木)	10月25日(金)	10月26日(土)
10月27日(日)	10月28日(月)	10月29日(火)
10月30日(水)	10月31日(木)	11月1日(金)
11月2日(土)	11月3日(日)	11月4日(月)
11月5日(火)	11月6日(水)	11月7日(木)
11月8日(金)	11月9日(土)	11月10日(日)
11月11日(月)	11月12日(火)	11月13日(水)
11月14日(木)	11月15日(金)	11月16日(土)
11月17日(日)	11月18日(月)	11月19日(火)
11月20日(水)	11月21日(木)	11月22日(金)
11月23日(土)	11月24日(日)	11月25日(月)
11月26日(火)	11月27日(水)	11月28日(木)
11月29日(金)	11月30日(土)	12月1日(日)
12月2日(月)	12月3日(火)	12月4日(水)
12月5日(木)	12月6日(金)	12月7日(土)
12月8日(日)	12月9日(月)	12月10日(火)
12月11日(水)	12月12日(木)	12月13日(金)
12月14日(土)	12月15日(日)	12月16日(月)
12月17日(火)	12月18日(水)	12月19日(木)
12月20日(金)	12月21日(土)	12月22日(日)
12月23日(月)	12月24日(火)	12月25日(水)
12月26日(木)	12月27日(金)	12月28日(土)
12月29日(日)	12月30日(月)	12月31日(火)

②夕涼み会（七夕会）【7月】

余暇希望アンケートの中からヒントを得て、7月にちなんだ季節的行事を考え、生徒たちが発案し、企画段階から事前準備、当日の段取り、反省まで3年生が中心となり活動に取り組んだ。

外食会の際のスケジュールの組み立て方を活かし、『いつまでに何が必要か』を考え、役割を分担しながら取り組んだ。特に中心となって進めた3年生同士で声を掛け合い、自分に割り振られた準備が終わると「他にやることある?」「手伝う?」と声を掛け合いながら事前準備を進めていた。

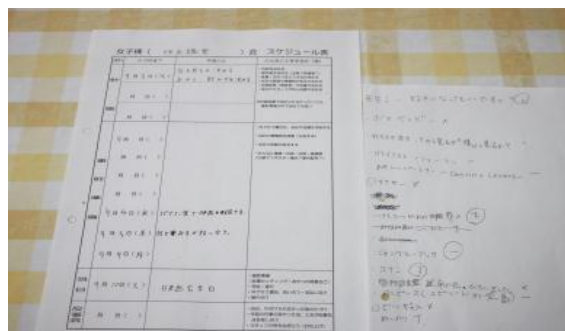


- ・7月にちなんだ行事を考える
- ・具体的に何をするか考える
- ・考えた内容で準備する物を考える
- ・準備する物を分担する
- ・作り物をそれぞれの余暇時間に作成する
- ・職員に準備して欲しいものを依頼する
- ・購入する物を時間がある人が買いに行く
- ・短冊書きなど他の生徒に協力を依頼し集約する
- ・対象生徒に日課変更や服装などの準備等、連絡する
- ・当日、会の中でアクシデントがあったときに対応する

③映画会【9月】

2年生が中心となり、短期間で準備が可能なものを検討した結果、事前準備が少ない映画会を行った。予算内でレンタルDVDを借りることになり、どんな内容の映画が良いか話し合った。良い案が出ず、学校のパソコン室を利用してインターネットで新作を検索した。生徒の中からみんなが興味ありそうなもの考える中で、映画を候補の中から絞り切れず、上映の仕方について考え直す案が上がった。

上映場所を女子棟各階で行うことで1日2本上映し、なおかつ2日間行い、計4本の映画を選ぶことになった。結果、選んだ映画に人が集まらず、途中で打ち切りになったものもあったが、大半の生徒が興味を示し、映画会に参加していた。2年生が主体となって企画を進めたが、準備や片づけを人任せにする場面が多く、反省点が目立つ行事となった。



④ハロウィン・ゲーム大会【10月】

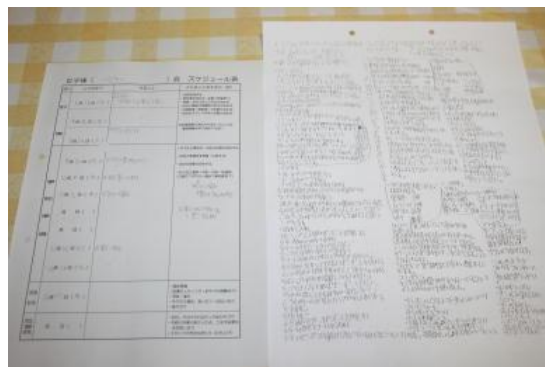
現場実習中の3年生の代わりに2年生が主体となって企画を進めた。

映画会の反省もあり、一部の生徒は意欲的に話し合いに参加し、スケジュールを見ながら準備を進めることができた。しかし、会全体の流れや細かな動きなどイメージを持つことが難しく、準備や話し合いの内容が毎回つながっていない状態であった。

また、職員の指示や意見を待つ生徒が多く、積極的に準備を進める生徒と指示待ち姿勢の生徒の差

がはっきりしていた。

- ・10月にちなんだ行事を考える
- ・具体的に何をするか考える
- ・ゲームのルールを考える
- ・ゲームの説明（進行台本）を作る
- ・準備する物を分担する
- ・作り物をそれぞれの余暇時間に作成する
- ・購入する物を時間がある人が買いに行く
- ・ポスターを作成し、対象生徒に連絡する



ゲーム内容

- ・かぼちゃリレー
- ・ミイラゲーム
- ・おぼけさがし

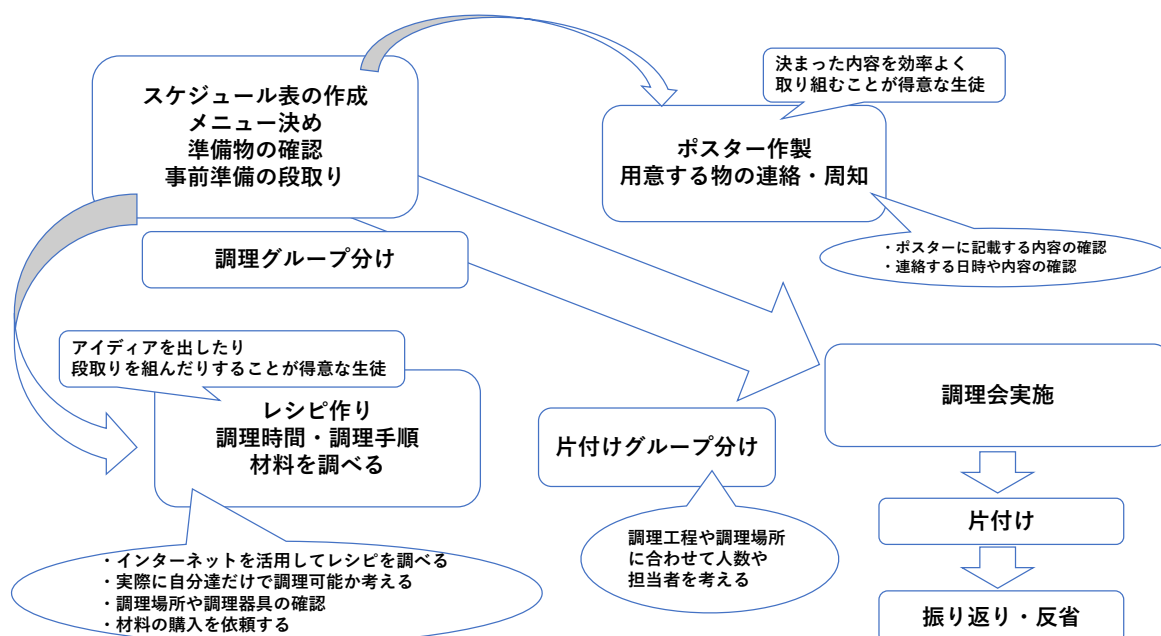
会のイメージを持ちやすくするために、考えたゲームを実際に2年生でやってみたり、実際に会を行う格技場で2年生のみリハーサルを行い、進行のポイントやゲーム説明の仕方など、生徒自身が気付けるように取り組みを行った。行事自体はリハーサルを行ったことで円滑に進めることができ、主体となって進めている2年生を3年生がフォローする形で雰囲気の良い行事となった。

後日行った反省会で、良かった点と改善が必要な点を生徒同士が話し合い、「こうしたら良かった」と今後に向けて工夫する点を考えることができた。一部、後片付けを行わない2年生がおり、3年生から指摘を受ける場面もあったが、一方的にできなかった点を責めるのではなく、お互いにどうしたら良かったのかを考える機会となった。

⑤秋の調理会【11月】

3年生と2年生が企画し行事を行った。

これまで実施した行事の状況から、特に計画、調整が得意な生徒がまとめ役となり、それぞれ得意なことを生かせる役割分担を行った。



これまでの実践から、特に2年生の一部生徒はアイデアを出したり、経験の無いことに対して消極的であったり、何をすべきか想像して行動することが苦手なため、取り組みにある程度見通しが持てるポスター作成や行事当日の日課変更（朝掃除）の呼びかけ等の役割を担い、その中で生徒なりの工夫や気づきを生かせるように進めた。

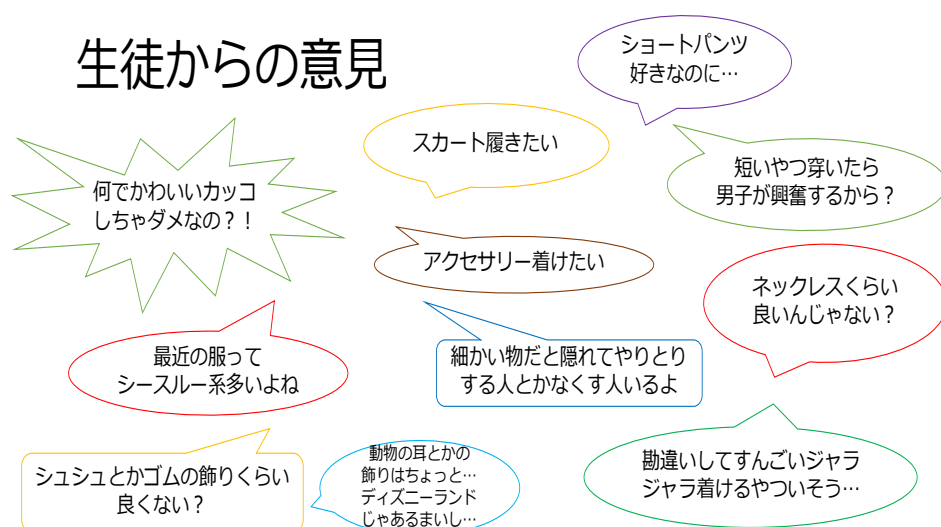
実施当日は予定していた調理時間通りに進まなかったり、小さなトラブルはあったが、生徒同士がフォローし合い、概ね計画通りに進めることができ、準備から携わっていた2、3年生だけでなく、1年生にとっても満足度の高い内容となった。反省の中で調理工程や材料、当日の動きや片付けに関することまで、細かく反省点が上がり、「もっとこうすれば良かった」「次はこうした方が良い」等、改良点や工夫など生徒自身の気付きが多く、「準備は大変だったけどやって良かった」と達成感を味わうことができた。

(3) 寄宿舎の決まりの検討

月に1度ある棟指導の際に、決まりについて意見を出し合い、女子生徒全員で意見を出し合った。

①寄宿舎内での服装、アクセサリーについて

寄宿舎内で女子生徒の服装について、『寄宿舎の決まり』には記述されていないが、現状ルールとしてあった服装の規制について、意見を出し合い決まりの見直しを行った。



話し合いの中で自分の意見をただ押し通そうとするのではなく、集団の中でみんなが気持ちよく生活するためにはどうしたらよいか、色々な立場（先輩、後輩、男子生徒）を考えて話し合いを進めることができた。

話し合いの結果

- ・色つきの髪ゴム・ヘアピンはOK
- ・シュシュや髪飾りは派手過ぎなければOK
- ・服装は肌が出過ぎてなければOK
- ・アクセサリーは行事の時だけOK

対人トラブルを起こさない
物のやりとりをしないことが前提条件

派手過ぎたり、
場に合っていなかったら
周りで声を掛け合おう

自分で判断できないときは
先輩や先生に聞こう

アクセサリーは男子も着けたい
人もいると思うから、
男子棟と相談してから決めよう

②単独バス車内での音楽プレーヤーの利用について

10月の棟指導の際に話題に上がり、現在全員で話し合いを行っている。

女子棟内だけの決まりではない為、室長会議の議題として検討してもらい、議論が進んでいる。特に女子生徒よりも男子生徒からの要望が強く、問題を提起したことで、バスの中で問題点や起こりうるトラブルを室長を中心として生徒全員が考え、賛成する生徒だけではなく反対する意見を持つ生徒

とも意見をすり合わせながら、生徒達がルールを作るために話し合いを進めている。

決まりがある理由や決まりがなくなった場合のリスク等、生徒1人1人が考え、どのように行動したら良いのか、他者に迷惑を掛けずに責任ある行動を取るとはどういうことなのかを考えるきっかけになった。

6 結果と考察

やりたいことや疑問に思ったことがあった時に、ただ希望や不満を口にするだけではなく、「どう行動したらよいのか」「自分にできることは何か」を考え、職員に相談する生徒が増えた。行事に関しては自ら企画を考え、学校行事や実習期間を考慮しながらスケジュール表を作成して提出してきた生徒もあり、実際に企画に対して多数の生徒が協力してアイデアを出しながら話し合いを進めている様子が見られた。企画の中には『準備が間に合わない』『多数の人が楽しめるものにならない』など、話し合いの途中で生徒たち自身が結論に至り、内容を実施できる規模に変更したり、企画自体を取りやめたりしたケースもあった。

様々な手順を踏み、生徒同士が話し合いを重ねて進めていく中で、自分本位な考え方ではなく他者の意見を聞く姿勢が養われ、立場や気持ちを考えながら時間や集団生活の中での制約の中で自分にできることは何かを理解し、行動できるようになったと考察する。

7 成果と課題

生徒達が寄宿舎での活動や決まりについて、意義を考え、より豊かな生活を送るために行動したことで、ただ漫然と生活を送るだけでは経験できない事柄を通し、自己肯定感を高め、他者と協力する大切さを実感させることができた。

自分と他者の得意なことと苦手なことを理解し、互いに意見を交わしながら得意な面で協力し合うことが増え、多角的に物事を考え調整役を進んで引き受けたり、リーダーシップを発揮する場面が現れた。また、これまで大多数が職員任せであったことに対して主体的に考え、取り組むようになり、自分の役割を理解し手間のかかることに対しても積極的に取り組む姿が見られるようになった。

生徒個々の実態の違いや課題の大きさから対象生徒全員がキャリア発達に関わる4領域全てにおいて成果があったとは言いきれない部分はあるが、大多数の生徒において一定の成果は表れたと捉えている。

集団での指導を中心に行ったことで個別での指導の中だけでは表出しにくい課題がより明確になり、集団の取り組みの後に室担から個別に指導を行うことで、生徒個々の成長に繋げることができたが、生徒の実態に合わせた支援の強弱の難しさが課題として上がった。

また、今年度の取り組みに対して、一部の成果がごく限定的でしか表れなかった生徒は、何かを成し遂げる達成感よりも面倒と感じることを回避しがちであり、ストレスに極端に弱い傾向がある。今後の支援のあり方について、前向きに考えさせ、意欲を持たせることが課題である。

決まりや余暇活動だけではなく、生徒に関わる事柄を総合的に考え、それぞれの活動の場や課題を独立して捉えるのではなく、関連性やつながりを意識しながら、支援のあり方を検討・実践していく。

3 成果と課題

全体研修に関しては、研究担当職員が参加して共通理解を図りながら研究を進めることができた。
また、寄宿舍職員への周知も行った。

実践研究は前年度の研究結果を踏まえ、「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」を主題として進め、社会性の面および身辺処理の面において、一定の成果が得られた。

指導期間中は、自立の足掛かりになる生徒の反応が見られている。主に「生徒自身がチームで物事に取り組むこと」や、「生徒自身が興味を持って取り組める目標を掲げること」、「生徒間で互いに意見を交えた深い対話を行うこと」が挙げられる。キャリア発達を育む指導を行う上で、これらの点が重要であることを確認した。

次年度は本研究をもとに、行事の場面での指導を継続して行うとともに、行事以外の場面においても生徒が興味を持ち、卒業後の自立した生活と結び付けて主体的な寄宿舍生活に取り組むための指導を進めていく。

【引用・参考文献】

渡邊昭宏（2013）みんなのライフキャリア教育 明治図書出版

渡邊昭宏（2015）自立活動の授業 de ライフキャリア教育 明治図書出版

文部科学省ホームページ（参照2020-02-01）：キャリア教育とは